

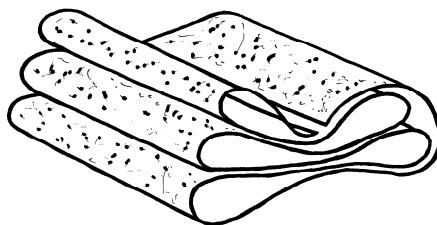
美術館・博物館仕様壁紙施工のお願い

1、下地の調整

- ・ 壁紙で下地の不陸を隠ぺいすることは不可能です。事前にパテ処理やサンダーがけなどで下地を平滑に仕上げてください。下地調整が不十分ですと、経年で不規則な変色となって現われる場合がありますのでご注意ください。
- ・ 施工後下地の色が透けて見える場合がありますので、パテは下地と同色のものをご使用ください。
- ・ 下地に合ったシーラで、シーラ処理を行ってください。特に合板下地の場合、数年後に合板のアクが出てくる場合があります。

2、施工糊等の準備

- ・ 糊（**でんぷん系糊**）は濃い目の糊を使用してください。
- ・ 糊付け後、壁紙を大きくたたみ上積みはさけてください。タタミジワが付くことがあります。



- ・ 通常オープンタイムは**5分～10分**ぐらいが最適です。長すぎますと合い剥ぎの原因となります。
- ・ 糊付機上で壁紙をスリットする場合は、刃の位置等を調節ください。織物が上手くカットできないことがあります。

3、施工

- ・ 有効巾を超えた巾での使用は色違いの原因となります。かならず有効巾内で施工ください。
- ・ ほつれの原因となりますので、カッター使用の場合カッターの刃は頻繁に変えてください。
- ・ ローラーやハケを強くかけすぎないようにしてください。撫でつけは一定方向でお願いします。
特にローラーがけは注意ください、強くかけますとローラー跡が残ります。
- ・ 光の当たり具合でジョイント部が白く見えることがあります。これはジョイント部の目が少しずれた場合に起こります。その場合は軽く押さて目ずれを直してください。

4、養生

- ・ 施工後は接着が安定するまで自然乾燥してください。冷暖房等での急激な室内の温度変化は避けてください。目すき・はがれ等の原因になります。